



自画像〈重要文化財〉雪村筆 大和文華館蔵 雪の月夜に、不機嫌な表情で何を思うの か。晩年の自画像と考えられています。

## CONTEMPORARY **PAINTERS** Sesson was an artist monk who was active in the Eastern Japan during the sixteenth century. This exhibit will display Sesson's works, as well as the works of artists who were active in the same era at the

「呂洞賓図」に代表される、気字壮大な作品を残した雪村は、十六世紀と いう動乱の時代に常陸に生まれ、絵筆をとる画僧となり、八十有余年におよ ぶ生涯を東国でまっとうした人です。本展では、中世禅林の初期水墨画や、 雪村と同時代に都で活躍した狩野派の水墨画などとともに雪村作品を展示 し、その独創性にあらためて注目します。いまだに、生没年すらはっきりし ない雪村ですが、その絵の前に立つ者を、瞬時に異次元の世界へ連れ去る ような表現力は、四百年以上たっても、古びることなく鮮烈です。



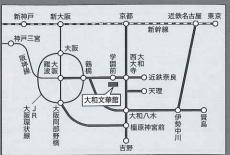
花鳥図屏風(右隻)〈重要文化財〉雪村筆 大和文華館蔵 音を立てて流れ下る雪解け水。長く暗い東国の冬が去り、 春を迎えるよろこびが、画面いっぱいにみなぎっています。

Capital, with a focus on the special charm of Sesson's unique paintings. 雪村のレパートリーに、こうした唐美人図も 入っていたとは意外な気もします。しかし、室 町時代の禅僧が唐美人図によせた賛詩は数 多く、人気の画題のひとつでした。



楼閣山水図 雪村筆 大和文華館蔵 山々が、むくむくとうごめく、命あるものの ようにみえてきます。





THE MUSEUM YAMATO BUNKAKAN

